

ふりがな 氏名	ますかわ さとる 榊川 知	職名	准教授
取得学位	学士(国語)	学会での受賞歴	
主な担当科目	特別活動の理論と方法、教職実践演習、教師論、生徒指導論、進路指導論、国語科教育法、教育内容演習、小学校教育実習指導、日本語表現法、国語		
所属学会	日本国語教育学会、日本生徒指導学会		

◆ 教育業績

事項	実施年月(日)	概要
ピクトグラムを用いた学生が行うSDGsの取り組み	令和4年 1月7日	瑞穂警察署よりの依頼を受け、ゼミ活動後の時間でSDGs(持続可能な開発目標)及びピクトグラムについての学びを深めた。その中で、17の目標から「住み続けられるまちづくりを」をテーマに、「運転席からの死角」を子どもたちに知らせるピクトグラムを作成することに決めた。「死角」をどう伝えるのかに苦労した。約2か月をかけて制作した作品は路上ステッカーとして利用されることとなり、名古屋市立汐路小学校で引き渡し式、校門内の通路への埋め込み作業、児童との交流が行われた。活動の様子は、1月12日に名古屋テレビ報道番組「アップ！」で取り上げられた。

◆ 研究業績

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
論文	『教員免許状更新講習の理解を深めるための教育・保育の論点ガイド No.3』	共	平成30年 7月	名古屋女子大学文学部 児童教育学科編	『今 求められる教師とは ー各自治体の教師像からー』 小学校教員採用選考試験において学生が主に受験する自治体 12 自治体(愛知県、名古屋市、三重県、岐阜県、静岡県、浜松市、石川県、川崎市、横浜市、神奈川県、東京都、千葉県)について、各自治体が求める教師像を取り上げ分析した。各自治体の掲げる教師像を、中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」(2006年)の時代性2分類「いつの時代にも求められる資質能力」(5 観点)と「今後特に求められる資質能力」(3 観点)に沿って分類した。その結果、第一に、「教育者としての使命感、子どもに対する教育的愛情を持ち続ける教師」、第二に、「教育の専門

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
論文					家として専門性や実践的指導力の向上に向けて学び続ける教師」、第三に、「チーム学校の一員として、組織的・協働的に新たな教育課題の解決に取り組む教師」の3つの教師像を導き出すことができた。
著書	<p>「保育者・教育者を目指す学生のための 自習ガイドブック」</p> <p>「保育者・教育者を目指す学生のための 自習ガイドブック 第2版」</p>	共	<p>平成31年4月</p> <p>令和2年5月</p>	<p>三恵社</p> <p>三恵社</p>	<p>第2部 練習問題と参考書 第1章 国語 第1節 漢字(基礎/実践)、第2節 語彙・語句(基礎/実践)、第3節 文法・敬語(基礎/実践)、第4節 文学史(基礎/実践)、第6章 論作文 第1節 原稿用紙の遣い方・推敲(基礎/実践)、第2節 表記のしかた(基礎/実践) 第3節 教育論文を書こう(基礎/実践)を担当した。</p> <p>執筆に当たっては、基礎編では保育現場・教育現場で役立つ基礎的な学力の習得を旨とした。実践編では、就職採用試験に合格するための学力の習得を旨とした。特に、自己評価に基づく自己学習を進めるための参考書を提示することで学びの継続をねらった。</p> <p>昨年度執筆した第1版の体裁変更に伴い、再度担当分野について精査し、加除訂正を行った。「第1章 国語」の「漢字」においては、送り仮名を意識させるようにした。「語彙・語句」においては、類義語に変更を加えた。「文法・敬語」においては、5種類の敬語を意識した内容とした。「文学史」においては、冒頭文を学びの対象とした。</p> <p>さらに、参考文献の精査も行い、加除訂正を加え、学生自身の自己学習をさらに進めやすくした。</p>

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月 (日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
著 書	「シリーズ教育・保育の論点 学び の深化」	共	令和4年7 月	三恵社	<p>『キャリア教育への一考察 ―開 発的進路指導を旨として』 昭和30年代前半までは「職業教 育」と呼ばれていた「進路指導」 は、戦後一貫して、中学校・高等 学校卒業後の将来を展望し、自 らの人生を切り拓く力を育てるこ とを目指す教育活動として教育 課程に位置付けられてきた。そ の定義は、自己実現論(人間を 自己実現に向かって絶えず成 長する存在としてとらえた諸理 論)の強い影響を受け継承され てきている。本稿では、進路指 導の変遷を踏まえ、平成11年1 2月に中央教育審議会から初め て公的な文言として提言された 「キャリア教育」について、&lt;4領 域・8能力&gt;から&lt;基礎的・汎用 的能力&gt;への変遷を踏まえ、今 後の進路指導の在り様について 考察した。全ての生徒を対象 に、学級における集団活動を通 して、今個に求められている諸 能力の育成を図り、個の成長が 集団を発展させる、そんな開発 的なキャリア教育(進路指導)が 求められている。</p>